

公共施設整備の思い語る

授業を行う小林眞前市長



小林前市長、八学短大で講義

八戸学院大短期大学部で 6日、新たに「地域文化論」の講義が始まり、小林眞前八戸市長が初回の特別講師を務めた。小林さんは幼児保育学科の1年生約50人を

前に、自身が任期中に整備した「はっち」やマチニワなどの施設を紹介し「八戸のことを知り、好きになって住み続けて」と呼びかけた。

小林さんは本年度、同短大を運営する学校法人光星学院の非常勤理事に就任した。講義では、各種公共施設を整備した背景や思い、ドクターヘリ導入の経緯や少子化問題についての持論を展開した。

2016年にオープンした八戸ブックセンターについては、「採算性を顧みない」とお叱りも受けたが、地方では手取りにくい本と出合う場をつくり、本が持つ価値を伝えたいと力を込めた。少子化に関しては、労働市場の自由化による正規雇用と非正規雇用の収入格差拡大に一因があるとの見解を示し、多様な視点からアプローチする必要性を訴えた。

授業を受けた秋山美空さん(19)は「フラット八戸が日本初の移動式床アリーナだったことなど、八戸にいたのに初めて知ることがあった」と感心した様子だった。

(田村祐子)